

《 1 》 イスラーム世界

次の略地図は、南北アメリカ大陸の除いてを描いたものです。また、下の文は、日本で行われるオリンピックに向けて、今後拡大していくイスラーム市場視察から帰ってきたしんいちさんと、出迎えた友人のとしきさんが交わした会話です。これを見て、あとの（１）～（５）の問いに答えなさい。



と し き：お帰り！ イスラム世界の視察はどうだった？

しんいち：感動の連続だったよ。①はじめに訪れた国は、世界最大のイスラム人口を持つ国で世界遺産であるボロブドゥール遺跡も見ることができたよ。かつては仏教が栄えたこの地も現在はイスラムを代表する国になってるんだ。

と し き：サウジアラビアにも行ったんでしょ？

しんいち：うん。イスラム発祥の地はどうしも見てみたかったんだ。そういえば、オリンピック競技に向けて世界のアスリートが最終調整に入中、サウジアラビアは、少し雰囲気が違ったよ。実は、サウジアラビアは、2012 年まで女性のオリンピック参加が認められていなかったらしいよ。現在は少しずつ女性アスリートも増えてるみたいだけど、まだ②様々な制限があるようだね。

と し き：なるほど。近い将来、オリンピックでもっと多くの女性アスリートが活躍していると良いね！

しんいち：そうだね。ところで、リオ・オリンピックでは、アスリート 12000 名のうち、ムスリムは 8000 名で全体の約 66%を超えるとされているんだ。そのため、③ハラール認証取得による受け入れ態勢を整えることが日本に求められているんだ。

と し き：もっと日本も異文化理解に努めてよりよい大会にしていく必要があるんだね。ところでイスラム教はなんでこんなに広まっていったんだろう？

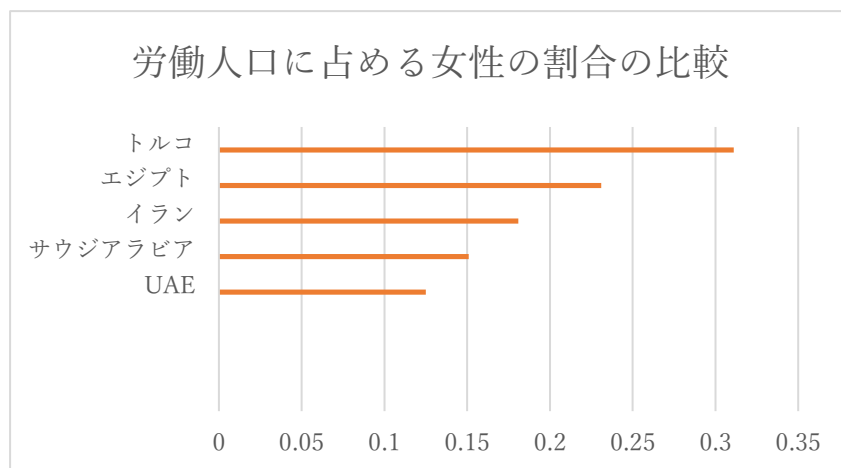
しんいち：今回視察する中で、イラクの首都④バグダードを訪れたんだ。この都市は、かつてイスラム帝国と呼ばれる巨大な国の首都だったようで、たぶんイスラム教が異民族にも受け入れられるような政策を行っていたのかもしれないね。

と し き：色んなイスラム教の国を訪れて多くのことに気づけたみたいだね。今回はとても良い視察になったんじゃないかな？

しんいち：そうだね。さながらかつて世界中を旅した⑤イブン=バットゥータのように異文化に触れることで様々なアイデアが思いついたよ。今回のオリンピックだけでなく、これからのイスラム市場拡大に努めようと思う。

- (1) 下線部①について、しんいちさんが最初に訪れた国はどこですか。略地図中の a～d から一つ選びその記号を書きなさい。

- (2) 下線部②に関して、イスラーム世界における労働人口に占める女性の割合を比較した次のようなグラフがある。イスラーム世界の中では他の国と比べ、トルコで女性の社会進出が進んでいることが分かるが、それはなぜか。資料Ⅰ～Ⅳより資料を二つ選択し、それらを用いて考えられる理由を答えなさい。



資料Ⅰ



資料Ⅱ



資料Ⅲ

ムスタファ・ケマルの近代化政策 (1928 年)

- ・女性参政権実施
- ・イスラーム暦廃止
- ・法律の西欧化
- ・文字改革
- ・ナショナリズムの形成

資料Ⅳ

ホメイニによる革命 (1979 年)

白色革命を進め、対米従属の度合いが増したことに對して、イスラーム教シーア派の聖職者の指導する国家として出発

- (3) 下線部③について、下の絵 a～d の中でハラールとして提供できるものはどれか正しいものを一つ選びその記号を書きなさい。

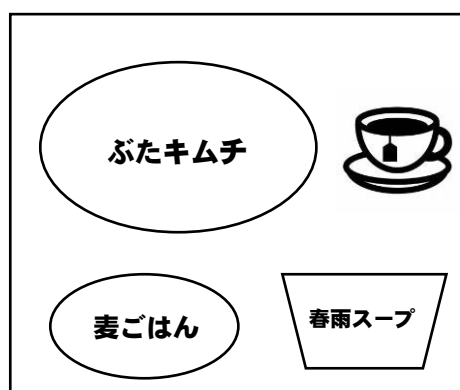
※ハラールとはイスラーム法上で、食べることが許されている食材や料理を指す。

a



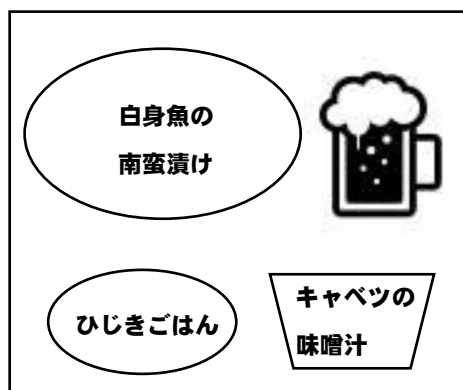
材料：れんこん、コロッケ、ベーコン
にんじん、パセリ、玉ねぎ
キャベツ、セロリ、丸パン
牛乳、じゃがいも、ソーセージ

b



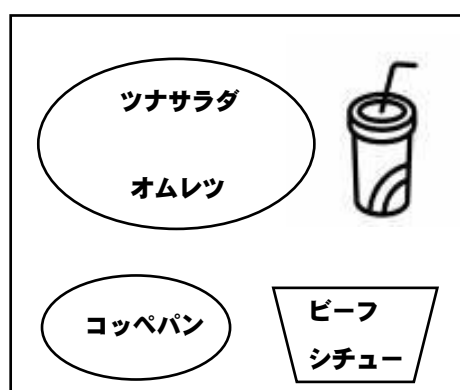
材料：ぶた肉、豆腐、煎り卵
ベーコン、にんじん、ねぎ
米、春雨、麦、キムチ
コーヒー、もやし、玉ねぎ

c



材料：鶏肉、大豆、ちくわ、ホキ
厚揚げ、合わせみそ、米
ねぎ、にんじん、ビール
きゅうり、砂糖、キャベツ

d



材料：牛肉、まぐろ水煮、大豆
にんじん、いんげん、コッペパン
砂糖、じゃがいも、烏龍茶
玉ねぎ、とうもろこし、キャベツ

- (4) 下線部④に関連して、かつてバグダードが位置する西アジアに国を築いたウマイヤ朝とアッバース朝の納税のしくみについて下の表を参考にして、両王朝についての説明として正しくなるような組み合わせを①～④のうちから一つ選びなさい。

	ウマイヤ朝		アッバース朝	
	ジズヤ	ハラージュ	ジズヤ	ハラージュ
アラブ人	×	×	×	○
マワーリー	○	○	×	○
異教徒	○	○	○	○

〔納税の義務がある場合は○、ない場合は×で表しています。〕

ウマイヤ朝は（ ア ）帝国と呼ばれる。 なぜなら、（ イ ）。
アッバース朝は（ ウ ）帝国と呼ばれる。 なぜなら、（ エ ）。

① ア：アラブ

イ：納税の義務にアラブ人と非アラブ人に差はなく、イスラーム教徒かどうか重要視されているため

ウ：イスラーム

エ：非アラブ人に対しては、イスラーム教に改宗しても納税の義務が生じ、アラブ人にだけ特権を与えているため

② ア：アラブ

イ：非アラブ人に対しては、イスラーム教に改宗しても納税の義務が生じ、アラブ人にだけ特権を与えているため

ウ：イスラーム

エ：納税の義務にアラブ人と非アラブ人に差はなく、イスラーム教徒かどうか重要視されているため

③ ア：イスラーム

イ：納税の義務にアラブ人と非アラブ人に差はなく、イスラーム教徒かどうか重要視されているため

ウ：アラブ

エ：非アラブ人に対しては、イスラーム教に改宗しても納税の義務が生じ、アラブ人にだけ特権を与えているため

④ ア：イスラーム

イ：非アラブ人に対しては、イスラーム教に改宗しても納税の義務が生じ、アラブ人にだけ特権を与えているため

ウ：アラブ

エ：納税の義務にアラブ人と非アラブ人に差はなく、イスラーム教徒かどうか重要視されているため

(5) 下線部⑤について下の資料Ⅰ～Ⅳにはイブン=バットゥータが訪れた土地の様子がしめしてあります。下の年表をもとに彼が訪れた順番に資料Ⅰ～Ⅳを並び替えなさい。

1304 年 2 月 25 日	モロッコのタンジールで法律学者の家に誕生
1325 年 6 月	メッカ巡礼のためタンジール出発
1326 年	カイロ、ダマスクスを経て、メッカのカーバ神殿で礼拝
1330～1331 年	アラビア半島 → 海路アフリカ東岸 → キルワへ
1332～1333 年	小アジア・黒海・中央アジアを回る
1333～1340 年	インドのトゥグルク朝着、法官として滞在
1344～1346 年	ベンガル、スマトラ島を経て、中国の泉州・広州・大都へ
1349 年 11 月	モロッコに帰る。翌年タンジールに帰郷
1351 年	キリスト教徒と戦うためにスペインへ〔グラナダ訪問〕
1352～1353 年	サハラ砂漠横断 → トンブクトゥへ
1354 年 1 月	モロッコに帰る
1355 年 12 月	『旅行記』の口述筆記を終える。

資料Ⅰ：



資料Ⅱ：カリカットの港は、世界の中でも最大の寄港地の一つである。われわれは東に向けて出帆する時期を待って、3カ月の間ずっと、異教徒の客となっていた。

資料Ⅲ：



資料Ⅳ：世界の数ある港のなかでも間違いなく最大のものであり、私は実際にその港で、約 100 艘の大型ジャンク船を見た。イスラーム教徒たちは、他から離れた一部の市街区に居住している。(略) この国の中で最大の町の一つで、市場についても最も立派である(略) 最大規模のものは陶器市場である。